Bookstart Newsletter

ブックスタート・ニュースレター

2024 2025 秋・冬 No.85

千葉県旭市

特　集

コロナ禍を経たブックスタート

～富山県小矢部市・千葉県旭市の事例から～

2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられてから約1年半。全国のブックスタート実施自治体からは、感染予防のために休止していた絵本の読みきかせを再開したとの声が続々と届いています。

読みきかせを再開した自治体では、引き続き感染対策を行いながら、従来の方法で実施しているところもあれば、健診のやり方が変わり、部屋や流れを変更して実施しているところもあります。

今回の特集では、アフターコロナにどのようにブックスタートを実施しているのか、富山県小矢部市と千葉県旭市の事例を紹介します。

さらに、恵泉女学園大学学長の大日向雅美先生に、コロナ禍を経て保護者の意識がどのように変化し、今、ブックスタートに何が求められているのか、事業を実施する意味、親子への対応のヒントについてお話を伺いました。

第2特集（P6）
［開催報告］
多言語対応絵本　試験実施報告会
～考えてみよう。外国人親子に「絵本」でできること

CASE 01

富山県小矢部市

事業開始：2008年4月
実施機会：4か月児集団健診
連携機関：図書館（事務局）・健康福祉課
ボランティア

「いろいろ…ぽっ ぽっ ぽっ」ボランティアの声に合わせて、保護者が赤ちゃんの頬を指先でそっとつつきます。心地よい音のリズムと鮮やかな色の絵に、赤ちゃんは不思議そうな表情です。

小矢部市では、健診の最後の項目としてブックスタートを行っています。コロナ禍は、感染予防のため読みきかせを休止し、図書館員が健診会場の出入口付近で、健診を終えた親子に趣旨を説明し、ブックスタート・パックを手渡していました。当初はフェイスシールド、ビニールエプロン、マスクを着けて対応していましたが、徐々に緩和。5類への移行に伴い、2023年7月、読みきかせを再開しました。現在は、コロナ前とほぼ同じやり方で実施しています。

ブックスタートの様子

●案内

▲誘導するのは図書館員。「次は緑色のエプロンの人のところに行ってね」と保健師が保護者に伝えます

▲ボランティアがお出迎え

●読みきかせの体験／趣旨説明

▲「こんな感じで楽しんでくださいね」と伝えながら読みきかせ

▲絵本リストなど資料を開いて説明します

◀保護者の気持ちを受け止めながら話をしてゆったりと過ごすことも

インタビュー Interview

●小矢部市民図書館●
小田晶子さん　蚊戸朋子さん

Q. 読みきかせを再開していかがですか？

赤ちゃんが一生懸命聞いてくれて、保護者も楽しそうです。保護者の中には、絵本に知育のイメージを持つ方もいますが、読みきかせがあると、絵本がコミュニケーションツールであることを自然な形で伝えることができると感じています。

Q. 事業を運営する上で意識していることは何ですか？

この事業は、図書館単独ではなく、健康福祉課とボランティアとの協働事業だということです。「読みきかせの楽しいひとときが、赤ちゃんの心を育み、読む人の心を和ませる」ということを関係者で共有し、保護者の皆さんに伝えています。

Q. ボランティアの研修について教えてください

年に１回、研修を行っています。講師を招いて絵本について勉強したり、保健師から4か月の赤ちゃんの発達や現代の子育てについて聞いたりしています。保健師の話は、保護者の心情に配慮した声かけを学ぶ機会になっています。

CASE 02

千葉県旭市

事業開始：2013年8月
実施機会：4か月児集団健診
連携機関：図書館（事務局）・健康づくり課
ボランティア

「赤ちゃんのご誕生、おめでとうございます」ボランティアが笑顔で声をかけると、保護者が微笑みます。絵本を読むと、赤ちゃん、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、ボランティア……会場いっぱいにみんなの笑顔が広がります。

旭市では、コロナ前は、保健センターのロビーで、健診の受付が済んだ親子に声をかけてブックスタートを実施していました。コロナ禍は、不特定多数の人の出入りを避けるため、読みきかせを休止して保健師からブックスタート・パックを手渡していましたが、2023年8月、読みきかせを再開。健診の流れの変更に合わせ、親子を部屋に誘導して最後の項目として行うなど、従来とはやり方を大きく変えての再開となりました。

インタビュー Interview

●旭市図書館●
木内桂子さん　岩瀬彩さん　土山怜香さん（後列）
ボランティアの皆さん（前列）

Q. 読みきかせ再開に向けて行ったことは？

毎年度、健康づくり課と協議を続けてきました。再開決定後は、まずは図書館員のみで新しい実施方法を確立してマニュアルを見直し、その上でボランティアに参加してもらいました。研修会も行って、事業の意義を再確認しました。

Q. 読みきかせを再開していかがですか？

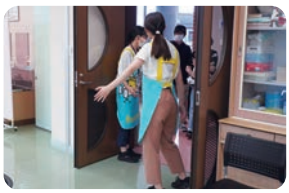
4か月の赤ちゃんでも絵本を楽しめるんですね、と保護者が喜んでくれます。読みきかせがあることで、赤ちゃんと気軽に絵本を楽しめることが伝わり、家庭での絵本の時間につながりやすいと感じています。

Q. ボランティアに活動してもらう上で大切にしていることは？

ボランティアが安心して楽しく活動できることです。会場で親子を待つ間に、情報を共有したり、新規のボランティアと手渡し方のシミュレーションを行ったりしています。マニュアルもありますが、ご自身の言葉で話してよいし、言い忘れても言い過ぎても気にしないでください、と伝えています。

ブックスタートの様子

●案内



◀内科健診を終えた親子を図書館員が誘導します

シールを受付番号表と照合して渡し漏れを防止

◀肩に貼ってある健診の受付番号シールを剝がします

●読みきかせの体験／趣旨説明

◀「赤ちゃんも絵本を読んであげるといろいろ反応をしてくれるんですよ」と声をかけて読みきかせ

◀『アドバイス ブックレット』を開きながら趣旨を説明します

資料をひとまとめにして説明しやすく

◀「ありがとうございました。気を付けてお帰りくださいね」心を込めてパックをプレゼントします

♪ひとコマ♪

♪ボランティアさんと一緒に、はい、チーズ！

♪お母さんのおひざの上でゆっくりと

小矢部市
TOYAMA

♪にっこり笑顔の赤ちゃん

♪不思議そうな表情で絵本をじーっ

♪赤ちゃんの様子を保護者が嬉しそうに見つめます

♪絵本の世界に夢中です

旭市
CHIBA

♪お姉ちゃんと一緒に楽しい時間

♪帰りのしたくをお手伝い

専門家から

地域に受け入れられる経験を

～コロナ禍を経たブックスタートの役割～

恵泉女学園大学 学長／子育てひろば「あい・ぽーと」施設長　大日向 雅美 さん

保護者に多様な影響を及ぼしたコロナ禍

コロナ禍の下、「ステイホーム」と言われ、人との関わりを断たれた中で子育てをしてきた保護者の意識は、今、大きく2つに分かれているように思います。

一つは、人との関わりの大切さに改めて気付き、積極的に地域に出ていく方。

もう一つは、あれだけの怖い思いをしながら赤ちゃんを育てた経験から、人と接することに臆病になっている方です。その中には、人と関わらないことがむしろ自然体になってしまった方もいて、子育てに困っていてもSOSを上手く発せられない場合があります。

今だからこそ、ブックスタートが大切

閉じこもりがちな保護者、なかなか一歩を踏み出せない保護者でも、赤ちゃんの健診には足を運びます。そこで、赤ちゃんの健康の話を聞くだけでなく、絵本の時間があると、健診に出かけたことが、実りあるものになると思うのです。

ブックスタートで、我が子が地域の人に絵本を読んでもらって喜ぶ姿を見れば、保護者は自然と、自分たち親子が周囲に受け入れられていることを感じるでしょう。すると、次も外に出て行きやすくなります。

コロナ禍を通じて、保護者は色々な形で心に傷を負いました。今だからこそ、ブックスタートで、地域に受け入れられる経験を親子に届けてほしいと思います。

「地域の専門性」を発揮する

赤ちゃんの育ちにおいては、家族との関係性はもちろん、地域の中で色々な人から目をかけられ、手をかけられることが大切です。

昔は、地域の人が子どもに声をかける光景が当然のようにありましたが、現代はそれが難しくなっています。しかし地域には、子育てや介護などの経験を積み、人生の喜びや悲しみをさまざまに知る人たちが、宝物のようにたくさんいます。そういう人たちが、一定の見識やスキルを身に付けた上で、地域で共に生きる仲間として横に並んでサポートする、「地域の専門性」を発揮する時代がきているのではないかと思うのです。

ブックスタートに来る保護者の中には、声をかけられることを望まない人もいるでしょう。そんな時は、無理して言葉をかける必要はありません。ブックスタートには絵本という素晴らしいツールがありますから、さりげなく相手との距離を推し量りつつ、絵本を読んでみてください。同じ地域に暮らす人がその場にいて、笑顔で向き合ってくれる。それだけで、安心できる保護者がたくさんいるはずです。

現代の子育てと絵本の時間

現代はなにごとも変化のスピードが早く、子育てもその流れに遅れまいと、「早く」「きちんと」「間違いなく」ということに一生懸命になりすぎているように思います。

でもどんなに時代が変わっても、赤ちゃんの育ちにとって大切な時間というのは変わりません。一日に5分だけでも赤ちゃんをお膝にのせて肌をふれ合わせ、絵本をひらいてゆったりと語りかける。このひとときは、時間に追われがちな今、赤ちゃんにとって非常に得難いものなのです。

絵本の時間は、保護者にとっても、赤ちゃんと関わる上で原点となります。赤ちゃんとどう接してよいのか難しく考えすぎず、一冊の絵本を介して、親子の心が自然とひとつになることを大切にしたいですね。

今、赤ちゃんとの関わりの原点を継承する機会は失われつつあります。ブックスタートは、赤ちゃんと向き合う術を保護者が知ることができる、価値のある場です。ぜひこれからも、絵本を媒介として、赤ちゃんとその周りの大人が幸せを感じるひとときをつくり続けていただけたらと思います。

第２特集　開催報告

多言語対応絵本 試験実施報告会

～考えてみよう。外国人親子に「絵本」でできること～

当 NPO では、外国人親子がより気軽に
ブックスタートで手渡された絵本を楽しめるよう、
日本語の絵本に翻訳シールを貼付した「多言語対応絵本」を制作。
2023 年度、事業を実施する自治体に試験的に販売提供しました。
その試験実施の報告会を、2024 年 7 月 5 日にオンラインで開催。
全国および海外から 190 名の参加がありました。

講演

多文化共生社会を創る ～大久保図書館の取り組み

東京都新宿区立大久保図書館
館長　米田 雅朗 さん

大久保図書館は、住民の3割以上が外国籍という土地柄のもと、多文化サービスに注力しています。所蔵資料約7万冊のうち、外国語資料は38言語、約2900冊（2023年4月現在）です。ネパールの方が「自分の国の言葉の本が1冊でもあると、自分がその街に受け入れられている気がして、とても嬉しい」とおっしゃっていたのですが、その言葉に母語の1冊は日本語の10冊、20冊にも匹敵する価値があると感じました。

図書館では毎月、外国語によるおはなし会を開催し、時には民族衣装の試着企画も行い、とても好評です。

いまから10年以上前のことですが、タガログ語を話す少年が読み手としておはなし会に参加しました。うつむき加減だったその少年は、母語で読みきかせの練習をするうちに元気になり、本番では堂々とした読みきかせを披露してくれました。そしてお礼を言うと、雄叫びをあげて喜んだのです。普段、日本語で苦労している彼が自信を取り戻した姿に、母語によるアイデンティの確立を肌で感じたことが、私が多言語サービスに力を入れるようになった原点です。

韓国語のおはなし会の様子。アラビア語、中国語、タイ語などでも実施

「お国はどちら?地球です」が、当館のキャッチコピーです。国を越え、人種を超え、誰も置き去りにしない理念のもと、目の前の一人ひとりを大切にしながら、人と人とがつながりあっていく図書館を目指しています。

報告

2023年度 多言語対応絵本 試験実施 ～企画から実施結果まで

NPOブックスタート

ブックスタートの対象は、事業を行う自治体に生まれた「すべての赤ちゃん」とその保護者です。その中には「日本語以外を母語とする対象者」も含まれますが、当NPOが取り扱っている絵本は、安定的な供給が難しいという理由から日本語のもののみでした。

しかし、外国人保護者の中には、日本語の絵本だと気軽に楽しめない方もいます。母語の絵本を手渡し家庭に持ち帰ってもらうことで、赤ちゃんと心ふれあう時間がもちやすくなるのではないか?そこで今回、絵本に翻訳シールを貼る形で、母語の絵本提供の試験実施を行いました。

翻訳言語は、0～1歳児の在留外国人の7割をカバーする5言語を採用。外国人に分かりづらいと言われる擬音語・擬態語は検討を重ね翻訳をしました。

こうして完成した絵本約400冊を32市区町村に販売提供。各自治体からは「絵本を仲立ちとしたふれあいの時間をより確実に届けられる」「地域住民として歓迎し応援していることを伝えられる」という肯定的な声が多く聞かれ、母語の絵本という選択肢を用意することには、大きな意義があることが分かりました。一方、翻訳言語およびタイトルの選定、制作にかかる手間など検討すべき課題が多いことも分かりました。

試験実施概要

納品期間：2023年8月～2024年2月
タイトル：ブックスタート赤ちゃん絵本30タイトルのうち、翻訳とシールの貼付に適したテキストや構成、レイアウトを備えた6タイトル
価　　格：自治体に販売している日本語の絵本と同価格　※翻訳にかかる費用および制作費は当NPOが負担
仕　　様：白地のシールに翻訳文（5言語併記*）を印刷し、日本語テキストの近く、かつ絵を損なわない箇所に貼付
　　*中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、ポルトガル語
翻　　訳：NPO法人おおさかこども多文化センターの協力のもと、研究者、翻訳者、外国語教員などが、言語ごとにネイティブ話者を含むチームを組んで翻訳

『あっ！』文／中川ひろたか　絵／柳原良平　金の星社
『おひさま あはは』作・絵／前川かずお　こぐま社
『ぎゅう ぎゅう ぎゅう』文／おーなり由子　絵／はたこうしろう　講談社
『くだもの』作／平山和子　福音館書店
『ぴょーん』作・絵／まつおかたつひで　ポプラ社
『よこむいて にこっ』作／高畠純　絵本館
※著作権者と出版社の許諾を得て制作しました。

報告

多言語対応絵本の配付から見えてきたこと

●予防的介入のツールに

山形県真室川町福祉課　佐藤 里保さん

異国での出産に「何もかもが心配」と話していたネパール人の母親は、母語の絵本を手にすると「私の国の言葉だ」と笑顔を浮かべていました。その後、家庭訪問をした際にも「赤ちゃんと何回も読んでいます」と話してくれました。

絵本を手渡し、「あなたたち親子をいつも見守っていますよ」というノンバーバルなメッセージを示せたことで、さらに信頼関係が強まったと感じます。また、外国人の親子は言語や社会的風習の違いから、孤立しやすい傾向にあります。ブックスタート時にボランティアや図書館職員が手渡すことで、地域とのつながりを感じてもらえます。母語の絵本は産後うつなどの予防的介入のツールになると感じました。

●配慮の選択肢を増やす

茨城県牛久市立中央図書館　星野 美紀さん

多言語対応絵本を受け取った方が「自分の国の言葉が出てきて驚きました。嬉しいです」と感想を伝えてくれたり、「So happy!」と赤ちゃんにキスをされていたりしたのが印象的でした。

母語の絵本は、自分や我が子のための絵本という気持ちが強くなり、家庭での読みきかせにつながりますし、日本語の習熟度に関わらず、自分の言葉で読みきかせができる安心感があると思います。図書館に来てもらうなど、次につなげていくためにも、対象者への配慮の選択肢は一つでも多い方がいいと思います。

牛久市ブックスタート会場にて

●一律ではなく、それぞれに応じた対応を

愛知県蒲郡市立図書館　田中 優子さん

以前、「生まれた国の言葉を忘れないようポルトガル語の本も読ませたい。図書館にありますか？」という問い合わせがあったことが、試験実施に参加したきっかけです。対象者のなかには、あえて日本語の絵本を選ぶ方もいるので、外国の方にはこうしましょうと一律に決めるのではなく、それぞれのニーズに応じた対応をしていくことが大事だと思います。

今後の課題として、対象者の把握が難しいこと、希望する言語の多言語対応絵本がないこと、学習目的で多言語対応絵本を希望する保護者への対応などがあげられます。

当NPOでは今回の試験実施をもとに、さまざまな立場の人が互いの経験やアイデアを持ち寄り、母語の絵本の出版・制作・普及について考えていく場を作りたいと思っています。ご関心やアイデアがございましたら、ぜひお知らせください。

大賞

沖縄県 sachimago さん

10 年前に長女に読み聞かせていた絵本を、今では長女が弟のために読んでくれます。瑞々しく描かれた果物の絵に手を伸ばし、「あむあむ、おいしい〜」と楽しむ弟に目を細めるお姉ちゃん達が微笑ましいです。

第 3 回 いっしょにえほん写真コンテスト 2024

受賞作品決定！

誰かと一緒に絵本をひらき、楽しいひとときを共有する――。
そんな share books(シェアブックス) のひとときが、
子どもたちのまわりに広がることを願い、SNS 上で開催している写真コンテスト。
応募総数 247 点から、今年度の受賞作品が決定しました！

選者 ※五十音順

かさいまり さん (絵本作家／日本児童出版美術家連盟 理事長)
きなこ さん (フォトグラファー・インスタグラマー)
金柿秀幸 さん (絵本ナビ代表)
NPO ブックスタート事務局

＼ たくさんのご応募ありがとうございました！／

その他の受賞作品は
こちらから▼

新刊のお知らせ

のびやかな育ちを支える ～0・1・2歳児保育の現場から～

井桁 容子 (保育士)

子どもたちが、ありのままの自分に自信を持って生きるために、大人ができることとは ー

子どもは、ありったけの力で楽しんで生きようとする存在です。一人一人が持っている、個性的で豊かな好奇心。子どもたちが「やってみたい」「知りたい」と思ったことに意欲的に取り組み、得意な分野に自信をつけながら成長するために、わたしたちは何ができるでしょうか。42 年間、0 ～ 3 歳児保育の実践と研究に携わってきた著者が、保育園での具体的な事例を通して、子どもののびやかな育ちを応援する方法を伝えます。鍵となるのは「共感」と「表現愛」。すべての大人に届けたい、大切な視点です。

770 円 (税込)

- 54 ページ
- A5 サイズ
- ソフトカバー
- 2024 年 5 月発行

ご注文はこちらから▼

ことのは

NPO ブックスタートのスタッフが出合った言葉

「そうですか。おっぽの ことは ほおっておきましょう」
がませんせいが しっかりと こたえました。

『マルマくん かえるになる』（文・片山令子　銅版画・広瀬ひかり　ブロンズ新社）より

おたまじゃくしから かえるに変わる、なんとも不思議な時期のかえるの子たち。うまく泳げなくなり「ぼくの おっぽって あしより つよくて かってに およぐんですう」と訴えます。新しい世界に足を踏み入れるときの不安な気持ちを「今できることをちゃんとやっていれば大丈夫」と がませんせいはドンと見守ります。そんなせんせいに憧れながら、幼い我が子と読んだ絵本。高校生になった娘に、がませんせいやマルマくんの言葉が再び届いたらと、本棚の手前に並べてみました。

Information

ブックスタート
全国研修会 2024 ［オンライン］

◆日時
2025 年 1 月 29 日 (水) 13:30 ～ 15:30

◆パネルディスカッション◆
ない!ない?どうするブックスタート
時間がない!? 人がいない!? お金がない!?

▶各地の経験を持ち寄りながら、ブックスタートの「これから」について、登壇者が語り合います

▼詳細はこちらへ